

# 第14号 華山会報

平成17年4月11日  
財団法人華山会

## 渡辺華山と宮本武蔵

慶應義塾大学教授 河 合 正 朝



渡辺華山先生の人となりやその芸術については、華山研究の泰斗であった恩師・菅沼貞三先生から折りに触れて教えを受けることがあったが、生来の怠惰さと若き日の研究関心が別のところであり、ついに専門的にそれを勉強する機会を得るに至らなかった。しかし、肖像画家として人口に膾炙する華山先生の名作である「鷹見泉石像」やその制作過程を知ることの出来る七枚の草稿も残されている「佐藤一斎像」、そしてまた素描である「末弟五郎像」に、この画家の真面目を見出し、一方、人の動きの瞬間を捉えてあますところのない「一掃百態図」や、その対象を自然にむけ親しみを込め、生き生きと描く「四州真景図巻」などに接したとき、先生の写生的な描写力の素晴らしさに、絵画鑑賞者の一人として感嘆の声をあげずにはいられた。それは、「枚書図」のような芸妓を描いた珍しい作品や、山水画の代表的傑作とされる「千山万水図」を目の当たりにしたときにおいても同じ感慨をもつことが出来た。そこには西洋的な視覚をもって、目に映るものを絵画に表現しようとする、近世写生画の達人としての華山先生の姿があるといつてよいだろう。

ところで華山先生に関して、わたしが一つ触れておきたいのは、剣豪として知られ、また画家としても評価される宮本武蔵の絵画を、それも武蔵の傑作と評価される「枯木鳴鶴図」を華山先生が所蔵し、愛好していたということである。この図は現在大阪府の久保惣美術館に所蔵されているが、図を収めた箱（旧箱）の蓋裏には、「文政庚辰嘉平月四日渡辺登審鑑誦書」の墨書と「登」の朱文印があり、華山先生が、文政三年十二月四日に、この図の鑑定を行っていることを知る。さらに別に付属する文章には、市に出されたこの図を、先生は、是非とも入手したいと思ったが、その時生憎手元に資金がなく、そこで師金子金陵の下で共に絵を学ぶ同門の友人である幕府寄力須賀川某に相談、購入を依頼し、そのうち華山先生の所蔵するところとなったことを伝えている。

枯木にとまり、その下にいる一匹の虫を狙う百舌の一瞬の姿を、水墨で簡潔に、また鋭く緊張感に満ちた表現力で描写したこの図に華山先生が引き付けられたことはまことに興味深い。同じ江戸後期の文人画家である田能村竹田は、自身の所蔵する武蔵筆の「布袋図」を評し、「筆法雋穎、墨色沈酣、阿堵の一点、奕々として人を射る」と述べるが、華山先生の武蔵観もおそらくこれに近いものと想像される。武蔵にとつての画事は、「諸芸にさわる」ことの手段であり、一道に通ずれば万能に達するとする見方に極まり、常に本分である兵法と不可分の関係にあった。剣の機峰を筆端に込めるとも評され、対象の瞬時の停止を描き、動の中の静を見事に描出する減筆の妙こそ武蔵画の骨頂である。「鷓鴣捉魚図」（出光美術館蔵）は、華山先生の花鳥画中の優品であるが、この図は、鶴が鮎をいままさに捉え、呑み下そうとすることを表わし、その情景を上から翡翠が見ている。これは武蔵の「枯木鳴鶴図」の画趣に合い通じあうところがある。この図は、田原塾居中の優品とされ、同時に、華山先生が、鳥や虫などの小動物を組合わせた図を折りに触れ描くことで、暗に自分の置かれた立場を示したり、鎖国日本と海外列強を比喩的に表現したという指摘は、すでに華山研究者たちによってなされている。華山先生が、武蔵の図を手に入れたのは、二十九歳の時と想定される。華山と武蔵画の出会い、いまわたしには、これはいかにも魅力的な研究テーマのように感じられるのである。



田原城跡

郷土の偉人 華山先生

田原市教育委員 華山会理事

富永道子

私は千葉縣市川市で育ちました。残念ながら、身近に、目立つた郷土の偉人は、いなかったようですが、「真間の手児奈姫伝説」といわれるものがありました。真間とは地名で私の通った小学校も真間小といえます。「ママ小？」と他の小学校の人から不思議がられたものですが、この地名の歴史は古く、万葉集にも真間の文字が詠まれています。

真間には絶世の美女・手児奈姫がおり、その姫の悲しい運命を、山部赤人や高橋虫麻呂が、想いを馳せて詠んだ歌が収められています。その手児奈姫が何人もの若者に求愛され困り果てた末、身を投げたとされる井戸があり、その井戸の周りで私達子供は、日が暮れるまで、鬼ごっこなどをして、遊んだものです。

しかし、手児奈姫伝説は、話の内容が、学校教育にはあまりふさわしくなかったようで、学芸会などでも

上演された覚えは、ありません。

田原に住んで四半世紀。田原で育った子供達は、渡辺華山を、郷土の偉人として身近に感じ、ことに学芸会での華山劇は、我が家のように、主役に縁のなかつた子供にも、親の私にも強く心に残っています。

先日、萩市を訪れる機会がありました。知名度の高い萩市ですが、人口は、田原市とあまり変わりません。しかし、三六万石の毛利藩と、一万二千石の三宅藩では、やはり城下町としての規模の大きさや、歴史の重みには、違いがありました。

萩は幕末の志士も数多く輩出しています。なかでも吉田松陰の生涯は渡辺華山と類似点が多く、幼名が、同じ呼び名の、虎之介（助）という事も、日本の将来を、純粹に憂いたがゆえに、投獄され、蟄居幽囚の身であった生活なども、萩の、白壁の路地を歩きながら、華山先生を、偲はせる事でした。

松陰は、松下村塾で、久坂玄瑞・高杉晋作・伊藤博文など、幕末維新

と、日本を動かす人材を大勢育てたのですが、「何のために学ぶのか？」と言う問いに対して、勉強とは、物事を知り、理屈を言う事ではなく、学んだ事をどう実行し、どう社会に役立てていくかを考えることだ。と諭しており、一五〇年たった現在、再認識しなければならぬ、学びの本質を教えているところに、驚くとともに、深く感動しました。

萩市教育会出版の、松陰読本は、小学生向けにわかりやすく書かれたものですが、萩市の子供達が、どのように、松陰先生の教えや、郷土の偉人たちと向き合っているのか？機会があれば、再度訪れて、是非知りたいところです。

国を愛し、純粹に至誠をもって、一生を貫いた華山先生。その生き方は、吉田松陰をはじめ多くの志士に影響を与えたに違いありません。私は、ますます渡辺華山先生を、尊敬するとともに、縁あって、ゆかりの地、田原に住んでいる事を、うれしく、誇りに思います。

目次

題字「華山会報」華山会理事

小澤耕一

渡辺華山と宮本武蔵

河合正朝

田原市教育委員

富永道子

目次

画家渡辺華山の心象

『雑祭図』

「駄舌小記」・「駄舌或問」

渡辺華山の

「自律狂歌草稿」鑑賞(6)

田原市博物館所蔵品から

『後藤光信筆用有像』

「鷹見泉石展」を観覧して

華山史跡

和田倉門跡

若戸小学校で聞きました

「華山を知っていますか？」

財団法人華山会からご案内

田原市博物館

画家渡辺華山の心象

ひなまろす  
雛祭図

天保九年（一八三八）絹本着色

縦一〇八・三cm 横二九・七cm

田原市博物館蔵

この作品を見る人は、最初はどこに目が行くでしょう。「画面下半分に塗られた毛氈を表現した朱色が、目を引くでしょうか。それとも、「雛祭図」というタイトルどおり主役である内裏びなででしょうか。真ん中に位置する御所人形や市松人形がもしれません。きれいで、かわいらしい桃の花に注目する人もいるでしょう。

華山作品には、同画題の作品も知られています。この中に描かれた内裏びな、御所人形、花魁、市松人形、白酒の瓶、桃の花といった全てのモチーフは非常に立体的に表現

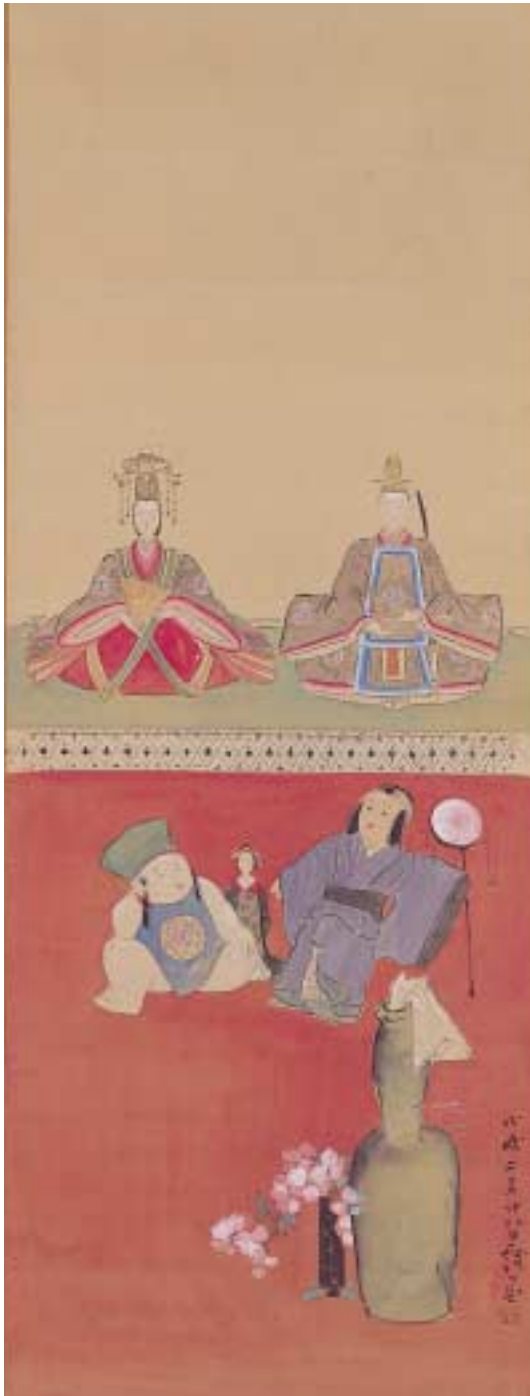
されています。手前に描かれた白酒の瓶と桃の花から奥の内裏びなへ向かって遠近感が非常に強調されているのですが、見た人は、一瞬それぞれの物が同一の大きさに感じられま

す。でも、実際にはその大きさはむしろ奥に位置する内裏びなが大きく、手前に位置するものほど小さいはず。落款には、「戊戌二月廿八日戲墨」と記され、天保九年二月二十八日に描かれたことがわかります。「華山」の方形印を黒で捺していますが、この印は現存しません。

晴れ晴れとした気持ちになった時に描かれ、色使いも鮮やかなものになったのかもしれませんが。当時の日本の遠近感の表現法は、中国画法を享受しており、現在のそれとは異なり、西洋画の遠近感と立体表現を会得していた華山ならではの作品と考えたいと思います。

田原市博物館学芸員

鈴木利昌



# 「駄舌小記」・「駄舌或問」 ③

研究会長 渡辺 巨祥

## 駄舌或問

(ここからが本文である。以降、国名等は現代語訳のみとする。)(底本は蓬左文庫)

一 或問 地誌ノ書幾何学「ウイスキユンチヘ」「ナイチユールキコンチヘ」「スタートキユンチヘ」  
 按スルニ「ウイス」歩推学即天ヲ専主トス「ナイチユール」自然ノ物理ニシテ地誌ニ取テ八地ヲ専主トス「スタート」人情風俗政事沿革等ノ主専テス  
 三家ノ内ニ近來大成ノ書何ト申物アリヤ將著者ノ姓名本國何年ノ印行貴國ニテ翻訳鑿刻等アル物承度

一 ある人問う、地誌の書、幾何学、「ウイスキユンチヘ」 印度学 「数理地理学」、「ナイチユールキコンチヘ」(自然地理学)、「スタートキユンチヘ」(政治地理学)、「要するに」、「ウイス」(数学)とは、歩推学(推歩学)(星学) 天体測量術の意味で、即ち天を専主(宇宙を中心としたもの)である。ナイチユールは、自然の物理を意味し、地誌としては地(地球)を専主(主)とする。「スタート」は、人情、風俗、政治、歴史などを含む概念で、人間を主とする地理学である。」  
 三家 三種 があるが、そのうちで、最近完成した将著(大著)があつたら、その姓名、出版年代、それから貴國で翻訳、出版したものがあつたら、あわせてお知らせ願いたい。

答曰 「ナチユールレイケ」及「アルゲメーニアールドキユンデ」六卷松郎察國入「ソナムル」所著千八百三十二年ノ刻也。未タ我國ノ翻刻ノ事を聞ヌ又我アムステルタムアカデミー 大学校 ノ「ホークレーラール」 学頭名「スコートル」ト云者「ウイスキユンデ」 測量地学 「長シ」地球ヲ航海シ実測セル地理書アリ皆羅旬語松郎察語ナリ我國ノ学者達人ハ独逸松郎察語ノ原本ニテ読得我國ノ訳書ヲ待ズ我國本ヲ得テ学者八三四年モ發明後レ可申候

答えていう、「ナチユールレイケ」(自然地理学)及「アルゲメーニアールドキユンデ」(一般地質学)という六卷の書物がある。これはフランス人「ソナムル」の著作で、一八三三年に出版されたものである。また我が國で翻訳・出版されたという事は聞いていない。また、オランダのアムステルダム・アカデミー 大学校の「ホークレーラール」 教授 である「スコートル」という者が、「ウイスキユンデ」 測量地学(数学)に長じ、地球上を航海して実測した記録に基づき、地理書を著した。これは皆ラテン語とフランス語で書かれたもので、我が國の学者達はドイツ語・フランス語の原本を読むことはできるので、翻訳を待つことはない。我が國で、翻訳書で学ぶ者は、研究が三、四年も遅れる。

一 或問 歐羅巴ノ内貴國ノ外何ト申國兵力強盛  
 答曰 生質勇敢戰闘精練ナルハ都兎格第一ナルベシサレト奇変百出ナルヲ以テ亦奇敗有之候是ニ当リ候者唯俄羅斯ナルヘシ氣質深沈思慮遠大ニシテ漫リニ兵ヲ動かサス若動カスアレハ終ニ必勝ノ利ヲ保チ候サルカラニ今大貌利太尼亞ハ竊ニ俄羅斯ヲ学申候

一 ある人問う、欧羅巴(ヨーロッパ)の内、貴國(オランダ)のほかに、何といふ國が軍事に優れているか。  
 答えていう、氣質が勇敢であつて、戰闘の訓練が優れているのは、トルコの國が第一である。しかし、徹底した奇襲作戦をとるので、かえつて思いがけない敗北を喫することがある。このトルコに相当する國は、ただガラシ(ロシア)のみである。氣質は、深沈(忍耐強く)にして遠望深慮にたけ、妄りに兵を動かさない。もし兵を動かすことがあれば、必ず勝算があつてのことである。そういうことで、現在大ブリタニア(イギリス)は、ひそかにガラシ(ロシア)を学んでいるのである。

一 或問 松郎察 是班牙 意多利亞 都兎格 蘇亦奇典 俄羅斯、ノ諸國著書亦多カルヘシナルヲ貴國ニテ翻訳ノ書ナキハ如何ニヤ  
 答曰 學問芸術ノ盛ナルハ独逸都次ニ松郎察ニテ余國ニ比スヘキ者ナシ唯大貌利太尼亞ハ機巧盛ニ行ハレ西洋諸國工種ヲ接キ其都輻動ニ輻集スルカ故他國ハ機巧ニ事ヲ欠リニ候其國一奇器ヲ製造スレバ大利ヲ得ル故ニ斯ル風俗トナレリ近年「ドイクルス」口ツク、水中ノ物ヲ捕リ得ル奇器ニテ中世創始スル物ナリシカ猶又精好ヲ極テ造リ出セリ四五年前我國ニ持渡リシ奇器ナリ其始官ヨリ仰付ラレシニヨリ「アムステルダム」ノ人「ロンドン」二十年計リ自借リ罷越シ習熟シ来リシニ無用ノ長物タルヲ以テ器ハ止リ其人ハ御返シニナリシ由ナリ 後「ストムマシー子」ト呼ル奇器ヲ創始セリ

一 ある人問つ、フランス、イスパニア、イタリア、トルコ、スウエーデン（スウェーデン）、ロシアの諸国で、著書が多数出版されているようだ。しかるに貴国（オランダ）に翻訳がないのはどうしてか。

答えていつ、学問技術が盛んなのは、ドイツ国で、つぎにフランスである。他の国で比較できる国はない。ただ、大ブリタニア（イギリス）は、技術が優れており、西洋諸国の技術者たちがその都ロンドンに集まり、他国は技術者の不足をきたしているほどである。その国（イギリス）では、新発明の機械を製造すれば、大変な利益を得ることができるので、このような現象がおこつたのである。近年「ドイクルスコック」（潜水器）水中の物を捕らえる奇器で、中世にはじめて造られたものであるが、近年いっそう精巧に造られるようになった。四ヶ年前に我国に持つてきた奇器である。はじめ幕府の命により、「アムステルダム」の人が「ロンドン」に十年（底本は十年だが、実際は三年）ばかり滞在して、その技術を習熟したのであるが、我国では無用の長物とみなされ、器械だけは長崎にとどめ、その人を帰国させたといふことである。その後「ストームマシネ」（蒸気機関）といふ名の、めずらしい機械を発明したのである。

此八火ヲ以テ自ラ遣ル車ニシテ最妙ナル物、我國ニテモ此製ニ倣ヒテ自行火船ヲ工夫セリ成レル「八未聞申サス候其船ハ風力ヲ借ラスメ走ルカラニ水程ヲ計リ更ニアヤマル」ナキヲ以テ官脚火船ニ用ヘキ物ナリ是ヲ呼テ「ヒュールマシネ」と申候何物ハ種兼申候已ニ「ストームマシネ」と申書有之候之ニハ其製造委シク記シ申候

これは火力によつてみずから走る車で、大変精巧なものである。我國（オランダ）でもこの製法を応用して自行火船（蒸気船）を考案したが、まだ成功の域に達したとは聞いていない。その船は風の力を借りずに走るもので、航路をきめれば、そのとありに走るものなので、幕府の飛脚船などに役立つことであろう。これを名付けて「ヒュールマシネ」（火力機関）と言つた。ただし荷物を積むことはできない。すでに「ストームマシネ」といふ題の書物も出版されていた。これには、その製法がくわしく記されている。

一 或問 新奇ノ品ヲ製造スルニハ一世ニテラサレハ二世三世ヲモ経テ成レル 物アリト聞ヘ候皆官府ノ人ニテ候ヤ左ナクハ生活ニ事欠キテ加様ノ者有テモ 志ハ遂申マシク候如何  
答曰 我國ニハ限ラス西洋諸國ノ風ハ「ゴットレイケ」 教ノ道「メンセンレイキ」 学芸「コンスト」 工考学 皆学校之有日新ノ功ヲ積候「二候有道ノ者ハ帝王ノ經濟勲功ノ者ハ補佐ノ職ニ登リ物学精博ノ物ハ芸学校ノ学頭ニ進ミ工術精絶ナルハ利禄ヲ得ルナリ

一 ある人問つ、新発明の機械を製造するためには、一世代でできなければ、二世、三世をも経て完成すると聞いている。すべて政府のお役人であるよし。そうでなければ生活に追われて、そのような志があつてもこれをなすことはできまいと思われるが、どうか。

答えていつ、我國に限らず、西洋諸国一般の風習として、「ゴットレイケ」 教ノ道（神学）、「メンセンレイキ」 学芸（人文学）、「コンスト」 工考学（技術）に関する学校が完備しており、人々はここで教育を受ける。有道（神道）を極めた者は、帝王の統治に参加し、勲功があれば補佐役に昇進し、物理学（自然科学）に精通した者は、芸学校の学頭（教授）に進み、技術に詳しい者は、これによって大きな利益を上げることができる。

人生レテ五六才「マートシカッペイ」 義学・郷学ノ類 二入此ヨリ其人ノ天賦ヲ品シ其志ヲ定メ多方駢拇ニ至ラシメス分年学程ニ從ヒ發明ノ事アレハ其節ヲ記シ諸學士ノ論定ヲ得政庁又衆議シテ帝王ノ許可ヲ蒙ル夫ヨリシテハ学資皆官府ヨリ出テ其物ノ成ル迄ハ二三家ヲ經トモ遅速ヲ責ル「ナシ或ハ其利スル者ハ商家ノ求ニ応シ其値ヲ定メ創始スルナリ左ナクテハ物ヲ開キ務ヲナス」能ハス是皆養才ノ政ニシテ國人ニ皆向フ所ヲ知シムルニヨリテ独学偏見ノ者ナシ大ニ論定ヲ經テ印行シ又創造シテ地球ニ及フ

人が生まれて五、六歳になれば、「マートシカッペイ」 義学・郷学ノ類（初等学校）に入學し、それより自分の個性にしたがつて志をたて、進學しても才能を駢拇（へんぼ）無用にする）無駄にしないように心がける。一定年限學業に従事したのち、新發明を思いつけばその説を記して學校に提出する。諸學士が審査の結果、政庁に進み、またふたたび衆議にかけて帝王の許可を得る。そして許可されると學費はすべて政府の負担となり、これより新發明が完成するまで、一、二、三代を経て遅速を責められることはない。あるいは又その利益を得ようとするものは、商家の求めに応じて、その価格を決めて、發明に従事する。このような仕組みがあればこそ、万物を開発し、事業を完成することができるといえるのである。これはみな人材養成の政治に基づくものであり、國民が進んで各人の才能の開発につとめるのである。またそのために独善的な者や偏見の者もない。研究成果は、大ニ論定を經テ、印刷、刊行される。そしてまたその成果は世界中にひろがるのである。

故ニ以テ他國ノ如ク独尊外卑自ラ耳目ヲ閉テ井蛙管見ノ弊風ナク學者ノ規模大ニシテ能容レ能弁シ其不知者ハ欠如ス是ヲ以テ実學盛ニ行ハレ向學ノ者日々ニ多ク日洪雨淋天ノ物ヲ生スル如クナレハ志アリテハ生活ニ事欠ナドト申義ハ無之候  
一 或問 仏郎機ハ是班牙ニ包レタル小國ナレハ伯西兒ヲ恃ミ獨立セルヤ  
答曰 然リ

そうであるから、他国（日本である）のようには、独尊外卑（自国を尊び外国を蔑視）して、自らの耳目を閉じ、井蛙管見（井の中の蛙のように）、独善におちいるという弊風はない。学者の規模拡大（気宇）が大きく、よく他人の意見を容れ、よく自分の意見を発表し、知らざるものはない。（あらゆることに通じている。）このようであるから、美学が盛んに行われ、学問を志す者は日増しに多くなり、日降雨淋（天が日光を照らし雨を降らして）万物を生育するようなものであるから、志さえあれば、生活にこと欠くようなことはない。

一 ある人問う、ポルトガルはイスパニアに囲まれた小国であるから、ブラジルの助けをかりて独立したのか。  
答えていう、そのとおりである。

一 或問 独逸都国同盟三十八国ハ從來臣属ノ国ナルヤ此国ノ帝ハ元來意多利亞ノ「カアレル」帝移リ都セル国ナレハ意多利亞モ今ハ属国ニヤ

答曰 独逸都国同盟三十八国ハ細亞諸國ノ制度ニテハ押計ラレス候ハシ從來臣属ノ如キ物コレ亜弗利加ノ「クー」ノ如キ生死与奪ノ權ヲ專ニシ一國ヲ私スル如キニハアラス意多利亞國獨逸都ノ属国ニハ無之候

一 ある人問う、ドイツ連邦三十八国は、從來、臣属の国なのであるか。此の国の皇帝は、元来イタリアのカレル帝（中世フランク王国のカール大帝）が都を移してつづいた国であるから、イタリアも現在は属国なのであるか。

答えていう、独逸都国同盟三十八国は、アジア諸国が国の制度について説明することはできない。おおざっぱにいえば、皇帝に臣属し、アフリカの「クー」と違い、生死与奪の権を握り、一國を勝手気ままに支配するといふものではない。イタリア国はドイツの属国ではない。

一 或問 大貌利太尼亞ノ國勢ハ俄羅斯ニ比スレハ何レカ強勢ニ候ヤ今時兩國ノ間角立不和ノ「アリア」

答曰 土地ノ広大國勢ノ強勢ナル「俄羅斯」ニ比フヘキ者更ニ無之候且大貌利太尼亞ト不和ノ「アリア」

一 ある人問う、大ブリタニア（イギリス）の國勢は、ガラシ（ロシア）に比べていずれがまさっているのか。現在兩國の間に確執や不和があると聞いているか。  
答えていう、土地の広大なこと、国力の盛んなことでは、ロシアに匹敵する国はない。また大ブリタニア（イギリス）とロシアとが不和であるといふことは聞いていない。

一 或問 第那瑪爾加八独逸都盟会ニ入タル国ニヤ

答曰 盟会ノ国ナラス  
一 或問 李滌生ハ從來自ノ国ニヤ又勃奈拔的擾乱ノ後同盟ニ成リ候ヤ

答曰 「ボナハル」大乱以前ヨリ独逸都盟会ノ国ニ候

一 或問 波羅尼亞國千八百十五年俄羅斯ヨリ官司ヲ置キ治メ来リシニ、「ホーレン」(國王) 近來高官ノ者一揆ヲ企テ俄羅斯ニ對シ合戦ニ及シニ終ニ俄羅斯勝利ヲ得シ由其後如何ニ相成リシヤ  
答曰 今ハ俄羅斯ノ下王都ヲ移シ總統セリ俄羅斯帝名ハ「ニコラス」

一 ある人問う、デンマークはドイツ連邦に属する国なのか。

答えていう、連邦の国ではない。

一 ある人問う、プロイセン（プロシヤ）は、從來、独立していたのか。また、ナポレオン戦争のうちに、ドイツ連邦に加盟したのか。

答えていう、ナポレオン戦争以前から、ドイツ連邦に属していた国である。  
一 ある人問う、ポロニア国（ポーランド）には、一八一五年以来、ロシアが官吏を派遣して支配してきたが、近年にいたり、ポロニアの高官（ポーランド国王）が反乱を企て、ロシアに対して合戦に及んだが、終にロシアが勝利を得たと聞いているが、その後ポロニアはどのような国になったのであろうか。

答えていう、ロシアの下王（オントロコニンク＝總督）が都を移して統治している。ロシアの皇帝の名は「ニコラス」（ニコライ一世）である。

一 或問 プラハントハ貴國ノ附庸ナリシニ近來仏郎察大貌利太尼亞ノ「國隠扶シテ貴國ト戦ニ及ヒシニ俄羅斯貴國ト戦ニ助兵ヲシ終ニ角立ニシ和セサル由今時如何ニナリタルヤ

答曰 「プラバント」ハ昔ヨリ自立シカタキ國ニテ一旦ハ是班牙ニモ属シ又窩々斯甸禮幾 独逸帝國 又仏郎察ニモ属シ候近年千八百十五年已來我國ニ属シ千八百三十年荷蘭ヤラマニ入ラント企候間此確執起リシナリ千八百三十三年今ヨリ五年前全ク仏郎察ノ内ニ入り独立トナリタリ

一 ある人問う、プラハント（ベルギーの一州・ここではベルギーをさす）は、貴國（オランダ）の附庸（従属國）であるから、近來、フランス・大ブリタニア（イギリス）の二國が、隠扶（隠してこっそり助けている）して、貴國（オランダ）と戦いになったが、ガラシは貴國（オランダ）に助兵をして、終には、角立（対立）して和睦したとのことであるが、現在はこのようになっているのか。  
答えていう、プラハント（ベルギー）は、昔から独立しがたい国であって、一旦は、イスパニアにも属し、またオーステンレイキ（オーストリア） 独逸帝國 にも

属し、またフランスにも属している。近年、一八一五年以来、我國（オランダ）に属しているが、一八三一年、オランダ・ヤラマ（不詳）に入らんと企てて、この確執（自分の意見を固く主張して譲らない）が起つたのである。一八三三年、今より五年前、完全にフランスの勢力圏に入り、独立となつたのである。

一 或問 俄羅斯国近来益々広大ノ国ニ成タル由去レドモ赤道以南ノ地方ニハ領地伝聞致サス何ノ故有テ貴国大貌利太尼是班牙仏郎察ノ如ク隔遠ノ地ヲ望マサル

答曰 暗厄利亜人ハ得ン「ヲ務メ魯西亜人ハ失ハサラン」ヲ欲ス夫絶海隔遠ノ地ハ其小弱ヲ脅ス時ハ甚得ヤスト云ヘトモ亦失ヒ安シ故ニ容易に魯西亜人ハ之ヲ欲セスタダ數百年ノ力ヲ以テ徳ヲ積ミ威ヲ示シ一タヒ其掌握ニ歸スル時ハ之ヲ再ヒ失ウ「ナキヲ務トス

一 ある人問う ガラシ（ロシア）国は、近来、益々広大な国になつたよつであるがされど赤道以南の地方には、領地を持つてゐるとは聞いていない。どのよつなわけで、貴国（オランダ）・ブリタニア（イギリス）・イスパニア・フランスのよつに、隔遠の地を望まないのであるか。

答えていう、アンゲリア（イギリス）人は、領地を獲得しようとする務め、ロシア人は、領地を失なわないように望んでいる。それは、絶海隔遠の地はその弱小の少数民族を脅かし、容易に獲得することができるが、また、失つことも容易である。故に、ロシア人は、これを望まず、ただ數百年の実力をもつて徳（実績）をつみ、國威を示し、いったんその掌握に歸する時（領地を獲得した時）は、これをふたたび、失つことのないよつに務めている。

故ニ陸地ツツキニ蚕食セン「ヲ其隱計トシテ支那領ノ滿州及蝦夷諸島ヲ謀ルミノ也ト云ヘルハ左モアルヘシサレトコレノ事情ハ容易ニ外國人ニ知ラセル「ナラ子ハ暗推ナラシムモ知リカタケレトモ其情状ヲ見ルトキハマタ其言理アルニ似タリ彼力彼隔遠ノ地ヲ欲セサルハコレノ故力又遠遠ノ地ハ割拠蚕食ノ患多クシテ却テ本國ノ憂ヲ致シ易キ為ニ貧瘡ヲ慎ミ候故力何レ其実否ハ八分不申候

故に、陸地つづきに蚕食（他國の領地を侵略すること）することを隱計（密かに計画し）し、支那領の滿州及び蝦夷諸島を謀（ねらう）つてゐるといわれるのは、さもあらざることである。しかしながら、これらの事情は、容易に外國人に知られてはならないことであるので暗推（密かに想像すること）しないで、知りたいと思つけれども、その情状（現実の動き）を見るとき、また、その発言などから、理（筋道）が通つてゐる（あるよつである。彼（ロシア）が隔遠の地を欲しがらないのは、このよ

うな理由によるものである。また、遠遠の地（遙かに遠い地）は、割拠蚕食（取り合いになる）憂いが多いので、かえつて、本國の憂いが増すおそれがあるので、貧瘡（どんらん）たいそつ欲の深い）を慎んでいるわけであるか。何れにしても、その実否（実情）はわからない。

一 或問 襪爾襪里亞人ノ内「アルギユルス」（亜白日余）「チュニス」（都尼素）「バルコ」（把尔加）等ハ皆都呂格ニ属シタリヤ

答曰 「トルコ」ニ属セスミナ海賊ヲ以タ業トセル國ナレト近来諸方ノ國ヨリ敵シクコレヲ制シタレハ古来ノ如クニハアラ子ト何レハ属シ候ト申義無之候

一 ある人問う 襪爾襪里亞（バルバリア）北アフリカ）人の内、「アルギユルス」（アルジェリア）、「チュニス」、「バルコ」（リビア）等は、みなトルコに属しているのか。

答えていう、「トルコ」に属してはいない。みな海賊を仕事としている国であるが、近来、諸方の國が敵しくこれを制しているので、古来のよつではないが、今この國に属しているかといふことは、いえない。

一 或問 北亞墨利加ハ広大無辺ノ地ニシテ其内尤広キ領地ハ是班牙ノ「メキシコ」府統括ノ地ナリ大貌利太尼亞領ハ僅ニ其東北ノ地新「プリユンスウエイキ」及「カナダ」ヨリ「メキシコ」海辺ヲ合ヌノミナルニ是ヲ総稱シテ「プリツチセプリタニ」ト申候可ナリニハ候ヘトモ「ニ此ヲ北亞墨利加ト稱候」傲慢ノ至リニハ非スヤ

答曰 今時タタ「ノーブルアメリカ」ト稱スレハ大貌利太尼亞ノ亞墨利加領ト申「ニ成来リ候

一 ある人問う 北アメリカは、広大無辺の地で、そのうちもつとも広い領地は、イスパニアの「メキシコ」府統括の地である。ブリタニア（イギリス）領は、わずかにその東北の地、新「プリユンスウエイキ」及び「カナダ」より、「メキシコ」海辺をあわせただけのもので、是を総稱して「プリツチセプリタニ」といふ。可なり（そういつてよい）と思つが、一つにこれを北アメリカといつてしまつことは、傲慢の至り（そういつていいかたでよいかどうか）になつてしまわないであらうか。

答曰 現在では、ただ「ノーブルアメリカ」といへば、ブリタニア（イギリス）のアメリカ領といふことになる。

渡辺華山の「自律狂歌草稿」鑑賞(6)

二十、行列も

(狂歌)

行列もよし田の宿の  
だて道具ふり行くものハ  
我身なりけり

(狂歌の意)

行列も立派な吉田の宿の華美な道具類  
よ。そのだて道具の槍を振って老いて  
ゆくものは私であったことだなあ。

(鑑賞)



乱に満ちた生涯を思い、自らの生のはかなさを慨嘆した歌として知られている。

華山は、この本歌の下の句を本歌取りして、吉田(現在の豊橋市)の宿を行く行列の槍持ちの心境を詠った狂歌として仕立てている。本歌の「ふりゆく」は「古りゆく」の意であるが、狂歌ではこれを「振りゆく」と毛槍を振る様に変えている。同音異義による転化をしたのである。この狂歌では、「つじた技法の他に」、「行列も

(本歌)

入道前太政大臣  
花さそふ嵐の庭の雪ならで  
ふりゆくものはわが身なりけり  
百人一首・九六

(歌意)

桜の花を誘って散らす嵐の吹く庭の、落  
下の雪ではなくて、古りゆくものは私の  
身なのであるなあ。

本歌は、入道前太政大臣(藤原公経)の歌である。幸

運に恵まれて、栄達の極に達した作者が、らんまんたる  
桜の花がはかなくも散っていく様子を見て、改めて、波

よし田の「の部分の「よし」は「良し」と「吉」の掛詞であり、華山の二工夫の跡  
が見られる。

「だて道具」というのは、豪華な道具ということ、特に武家では装飾を派手にし  
た槍のことを言い、大名行列ではこれを振って、「下にい、下にい」と呼ばわりなが  
ら街道を練り歩いたのである。

新しく豪華な毛槍を得意そつに振り歩いて行く奴の様子が目に浮かぶ。

二十一、金仏の

(狂歌)

金仏の光りなればや水のミ  
もワがたつそまに黒染  
の袖

(狂歌の意)

金仏の光りであるからなのか、水呑み  
百姓の私も、この比叡山に住み着いて  
墨染めの法衣を身にまとうようになっ  
たことだ。

(鑑賞)



本歌の作者前大僧正慈円は、関白藤原忠通の第六子で、  
十四才で出家し、四度天台座主の地位についた人。いわ  
ば、れっきとした家柄の出で、僧侶としても最高の地位  
についた人である。

狂歌の方は、そつじう本歌の作者の経歴と対照的に、墨染の袖を通す人物の出が

(本歌)

前大僧正慈円  
おほけなくつき世の民におほかな  
わがたつ袖に墨染の袖  
百人一首・九五

(歌意)

私に取っては不相応であるが、この世の  
人々に加護があるように法を説くことにな  
った。この比叡山に住み着いて、墨染  
めの法衣を身にまとう私は。



水飲み百姓の出だといふことを強調して、「身分の低い水飲み百姓の私が墨染の衣をまとうことができたのは、れっきとした家柄の出であつたからではなく、あの光り輝く仏様のお陰だ」と仏のお陰とすることで仏の力を賛美するとともに、本歌の作者前大僧正慈円は、れっきとした家柄の出であるから、僧としても高い位につくことも、大げさなことが言えるのも当然だと、揶揄しているのである。

江戸の封建体制下にあつては、体制への批判や社会批判は厳しく言論統制されてきたから華山のような武士階級の者から、町民や農民に至るまで、冗談めいて明るく笑いとばすか、この狂歌や川柳のような形式を借りて揶揄したり、皮肉ったりすることで鬱憤ばらしをするしかなかつたのである。

この作の場合は、華山の心の底にそつした批判や皮肉めいた気持ちが強くなるわけではないが、墨染の袖を通す人物の出が水飲み百姓の出だとするので、本歌の作者前大僧正慈円と比べてその身分の違いによるおかしさを引き出すとしたのである。

二十二、かりそめの

(狂歌)

かりそめの博奕にまけた  
くやしさにふるさと寒く  
衣つつなり

(狂歌の意)

ほんの一寸と手を出した博打に負けた  
悔しさにふるさとで寒々と衣を打つて  
いるよつだ。

(本歌)

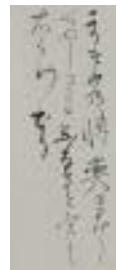
参議雅経

み吉野の山の秋風さ夜ふけて  
ふるさと寒く衣つつなり  
百人一首・九四

(歌意)

吉野の山の秋風が吹き、夜も更けて古い  
都のあつた里では寒々と衣を打っている  
よつだ。

(鑑賞)



狂歌の「かりそめの」は、一時的だとか、ほんのちよつとの意。

本歌の「ふるさと寒く衣つつなり」を本歌取りして、本歌の主題である秋の夜の寂しさ・わびしさを、狂歌では博打に負けた男のくやしさを、わびしさに俗化させることで、滑稽な笑いを引き出すことをねらっている。

本歌と狂歌をこうして並べてみると、本歌の夜更けて響く砧の音は古典的な秋の夜の静寂の風情が実によく出ているが、狂歌の方は、博打に負けた悔しさに打つ砧の音だから、「こんちくしょう、悔しい悔しい」という悔しさのあまりのやけっぱちな音になって、とても風情どころではないといっているようで面白い。

二十三、離縁状

(狂歌)

離縁状おとしに遣たこの  
あまめあまのおふねのつなて  
か(な)しも

(狂歌の意)

離縁状の意に従わせようと人を遣つたのに、このあまめ、海女のおふねのみの引綱が何ともあわれなことだ。

(本歌)

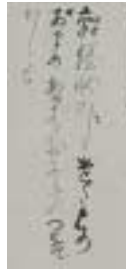
鎌倉石大臣

世の中はつねにもがもななざさくぐ  
あまの小舟のつなでかなしも  
百人一首・九五

(歌意)

世の中はいつまでも変わらないものであつてほしいものだなあ。渚を漕いで行く漁夫の小舟の引綱は、心引かれるものであるよ。

(鑑賞)



本歌の作者鎌倉右大臣というのは源実朝(一二九二—一二九九)のことである。実朝は源頼朝の二男で、二十七才で右大臣となり、その翌年、甥の別当公暁に鎌倉八幡宮の銀杏の樹の下で殺された。家集に『金槐和歌集』があり、当時の和歌に新風を吹き込んだ。本歌は、その実朝が、庶民の営々と働く姿を見て心を打たれ、この世がいままで変わらないでいて欲しいと世の不变を願って詠った歌である。

これに対して、華山の狂歌は、本歌の下の句「あまの小舟のつなでかなしも」を本歌取りして、男が女に離縁状を突きつける場面を想定したもので、本歌のおおらかさとは裏腹のせつば詰まった場面にして、庶民生活の一面を面白おかしく引き出そうとしている。

「離縁状」は、江戸時代には「三下り半」とも言って、三行半で書き、男から女へ一方的に離婚を迫る時にこれを使った。その離縁状を「おとし」というのは、「おとす」には意に従わせるという意味があるので、離縁を承知させることである。「あま」は本歌では漁夫のことであるが、狂歌では「このあまめ」などというように女のことをさげすんで言うことばである。「おふね」は本歌では「小舟」のことだが、狂歌では「おふね」という女の名前と見るべきであろう。「つなでかなしも」は、狂歌の表記では「な」が欠落して「かしも」となっているが、これは補足し、「かなしも」として解釈することとした。

狂歌では、離縁状をしいの者に突きつけられた「おふね」という女性が、突然の「三下り半」に当惑し、哀しみに暮れて、容易に承知もできず困っている様子が想像される一方で、別のところで「このあまめ」とかっかど憤慨している男の姿が想像されて、面白い。

二十四、ふく紙も

(狂歌)

ふく紙もつゝかね八とてふんとしも  
人こそしらねかわく間も

なし

(狂歌の意)

拭く紙も続かないので、禪も使ったため、人は知らないでしょうが、禪の乾く間がありません。

(本歌)

わが袖は潮ひにみえぬ沖野の石の  
人こそしらねかはくまもなし

百人一首・九二

(歌意)

私の袖は(あの)引き潮の時にも姿を見せない沖の石のように、あなたは知らないでしょうが、(涙のために)乾く間がありません。

(鑑賞)



本歌は、ひそかに思う恋人に思いを表せない自分を沖の石にたとえて、あなたは知らないでしょうが、私は涙の乾く間がありませんと、自分の深い嘆きを訴えた歌である。

これに対して、狂歌は、本歌のそんなはかなくも哀しい女の嘆きを現実の世界のままのままの姿をさらけ出した暴露的なものとして、露骨に情事のあとの後始末をする人間の哀感を主題にすることで、笑いを誘おうとしたものである。本歌の優美な恋の歌が、狂歌になると、露骨でエッチな歌に変わってしまうところに、狂歌や川柳でなければできない、独特の言葉遊びがある。

あの華山先生がまさかこんな狂歌を書かれるとはと驚く人もあるかもしれぬし、華山も又なかなかやるものだわいと内心感心している人もいるに違いない。

# 田原市博物館 所蔵品から

重要文化財 後藤光信筆 冉有像  
ぜんゆう

(孔門十哲像の内) 大窪詩仏賛

絹本着色

文化十三年(一八一六)

縦一〇二・九cm 横三六・九cm

賛の意味は次のとおりです。

千家程ある大邑、百台の兵車を出す卿大夫の家は、軍隊を統御する力があり、人民に衣食を充足すること

丙子春晩後藤光信薰沐謹寫

千室百乘治賦足民 千室百乘賦を治め民を足らしむ

許聞行之為不兼人 聞くままに之を行ふを許さるは人を

兼ねざるが為なり

性雖謙退不知其仁 性謙退と雖も其の仁を知らず

其於政事季路之倫 其の政事に於ては季路の倫なり

後学大窪行謹題



ができた。(孔子によると)聞くままに充足するのを許すのは、すぐれた人間性を兼ね備えてはいない。へりくだって控えめな態度をとる人物といえども至善の境地に達しているかどうかそれは知らない。その国家を治める才は子路と同類である。冉有は姓を冉、名を求、字を子有といえます。孔門十哲の一人です。魯の国の人で、消極的な人柄のように、孔子に、「遠慮がちである」(論語、先進編)と評されたり、「自身を見限っている」(同、雍也編)と諭されていました。しかし、魯の大夫・李氏の宰(長官)となりまし

た。しかし、李氏が租税を厳しく取り立てて財産を増やしているのを、諫めるどころかそれに協力したので、孔子は、「もう私の門人ではない、軍隊に攻撃させてもよい」と怒りました(同、先進編)。画を描いた人物は、後藤光信ですが、どのような人物であったかは解っていません。賛の大窪詩仏は父宗春のもとで医学を習うと共に、儒学も学びました。また、詩も学び、父の病没後、医者になることを止め、詩人として立つことを志しました。江戸神田のお玉が池に家を建て、詩聖堂とし、多く

の人が集まりました。文政の大火で詩聖堂を消失し、晩年はかつての華やかさはなかったといわれます。谷文晁とも親しく交流していました。七十一歳で亡くなりました。

この作品は、昭和三十年二月二日に重要文化財に指定された渡辺華山関係資料の附として、同三十二年一月九日に追加指定され、昭和五十三年三月二十四日に歴史資料に指定替されました。

田原市博物館学芸員

磯部奈三子

「鷹見泉石展」を観覧して

平成十六年度 華山史学研究会視察研修

研究會員 林 哲志

平成十六年度の華山・史学研究会の視察研修は茨城県古河市にある「古河歴史博物館」において、「鷹見泉石展」を観覧しました。

秋が深まる十一月六日、私たちは豊橋駅の新幹線改札口に集まり、東海道新幹線・山手線・東北本線を乗継いで、古河駅に到着しました。昼食後、「古河てくてく観光マップ」を片手に市内を散策しながら、古河歴史博物館を訪ねました。

博物館では「鷹見泉石展 国宝のモデルが集めた文物」（詳細は『華山会報』第十三号をご覧下さい）と称する特別展を観覧しました。私たちが観覧するなかで、まず話題にしたのが、「国宝のモデルが集めた文物」というサブタイトルがオシ



古河歴史博物館のエントランス  
(2月25日撮影)



「鷹見泉石展」図録の表紙

ヤレですねということでした。そして、この企画展示が身近なものに感じますねということも話しながら展示を拝見しました。

「国宝のモデル」とは、もちろん渡辺華山の描いた鷹見泉石のことで、国宝とは「鷹見泉石像」（東京国立博物館所蔵）のことです。この表現はこれまでに発行された古河歴史博物館の紀要である『泉石』に掲載された論文にもみられます。古河では泉石のことをこのようにも表現しているのです。

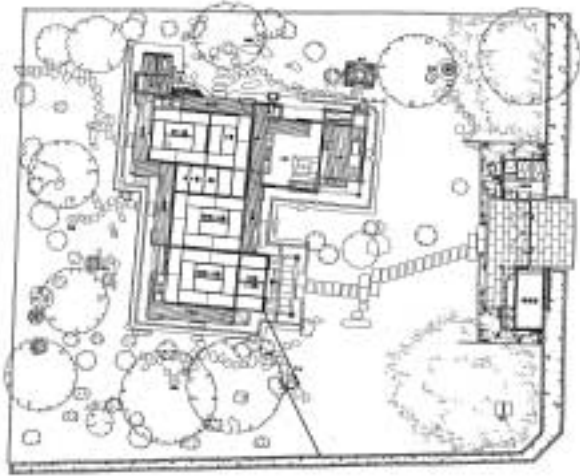
具体的な展示レイアウトもユニークで、「海を渡った国宝」というタイトルで明治四十三（一九一〇）年の「日英博覧会」に出品された鷹見泉石像を紹介してありました。また、「鷹見泉石関係資料」については「網羅的なのに、なぜかまとまっている」「仕事もしていました」「こんなものま



博物館のエントランスからみた鷹見泉石記念館の長屋門（2月25日撮影）

で集めたの・・・」「博覧会の人気者」といった表現でそれぞれのコーナーにタイトルがついており、たいへんなじみやすい展示でした。

また、この特別展の図録はA5版で便利でした。私は博物館や美術館の展示をみるのが好きで、年間多くの館に出かけ、そして、図録を購入しますが、この展示図録はセンスがよく、内容も必要且つ十分に好感が持てました。特に、今回のよう



鷹見泉石記念館の平面図（「鷹見泉石記念館設計監理覚書」  
松井郁夫著『泉石』第4号より）

に公共交通機関を使つての旅行のおみやげには、そのコンパクトさがうれしかったです。  
さて、私たちは博物館での特別展観覧の後、隣接する「鷹見泉石記念館」を訪ねました。記念館は、かつて泉石が晩年を過ごした家を改修保存し一般公開している施設でした。建物の歴史は古く、寛永十（一六三三）年に建てられたそうですが、博物館の開館にあわせて、平成二（一九九〇）年に記念館としてオープンしたそうです。古い建築に興味がある私としては、長屋門から入って左手にある飛び石の並んだ庭園を抜け、犬走を歩きな



記念館の縁側でお茶をいただく研究会員（渡辺巨祥会長撮影）

から裏庭を通り一周しました。茅葺き屋根の棟積茅の小口には「水」と「寿」の文字がレリーフされています。  
私たちが訪問したときは、ちょうどお茶会が催されておりご相伴にあずかりました。記念館の東側の「泰西堂」と呼ばれる座敷の縁側に腰を下ろし、眼前には庭のシンボルである「楓樹」をみながらお茶をいただきました。至福の空間と時間を堪能することができました。  
最後に、この特別展が企画・開催されたことに

本文を書くうえで、古河歴史博物館の永用俊彦さんにお手数をかけました。お礼を申し上げます。



『鷹見泉石日記』全8巻

は、平成十三年三月から翻刻刊行がはじまった『鷹見泉石日記』（古河歴史博物館編、全八巻、吉川弘文館発行）の全巻完成を記念しての意味もあつたそうです。一巻あたりの定価が一万三千円プラス税という、全巻あわせると十万円を超えるけつして安い本ではありませんが、半年に一巻ずつの発行だとあまり負担に感じることなく、後で史料になるだろう」と私は個人的に購入してしまいました。ただし欲をいうと、総ページ数が二千八百七十一もあるので、デジタルデータでの刊行もあると利用しやすいのにと話題になりました。

## 華山史跡 和田倉門跡

東京駅丸の内中央口から現在の皇居（かつての江戸城）へまっすぐ向かうと、「行幸通り」と呼ばれる広々とした道があります。「丸ビル」こと「丸の内ビル」を左に見ながらその道を西に三百メートルほど歩くと、「和田倉門跡」があります。江戸城は周囲に水堀がめぐらされており、橋と門が一体となった江戸城守衛のための門番が二万石から三万石クラスの譜代大名の担当でした。東京駅に一番近い「和田倉門」改築の担当に田原藩三宅家があつていた時に渡辺華山が詠んだ書が田原市博物館に所蔵されています。



中秋歩月五言律詩 渡辺華山

文政二年（一八一九）田原藩に江戸城和田倉門の改築加役が命ぜられました。当時は十一代將軍家斉（將軍在位

一七八七—

八三七）の時

世で、江戸城

では夜には宴

を催し、ろう

そくの光が夜

空を染めてい

ました。華山

は和田倉門改

築の監督を六月から勤め、八月に官舎

で読んだものです。工事は文政六年ま

で続けられ、田原藩でも改築費用捻出

のため、借金と藩士の引米をしていま

した。



「俗吏難與意 孤行却自憐 松林黒于

墨 江水白於天 樓遠唯看燭 城高半

帶雲 不知今夜月 偏照綺羅筵 中

秋歩月 于時在和田倉官舎 登」とあ

ります。読みは、「俗吏意を與にし難く

孤行却つて自ら憐れむ。松林は黒より

墨く。江水は天よりも白し。樓は遠く

唯燭を看る。城は高く半ば雲を帯ぶ。

知らず今夜の月。偏に綺羅の筵を照ら

す。 中秋の月に歩む 時に和田倉

官舎に在り 登」です。

意味は、「眼前の仕事に汲々としてい

る官吏たちは天下国家のことを思うこ

とはむずかしい。自分は下級武士とし

てのこの身のあわれさを思う。中秋の

名月が照る下で、江戸城の周りをめぐ

る堀端の松林は墨よりも黒々としてい

る。堀の水が月の光を映して天空の色

よりも明るく輝いている。遠くに望み

見る江戸城の高樓には、長夜の宴のた

めの明るく耀く燈火が見え、城は半ば

雲を帯びたように高くそびえ、將軍は

藩の下級武士の苦勞や悩みなどは知ら

ぬように、遠く高くかけ離れた雲の上

の存在である、耀く今夜の月がただ綺

羅を尽くした高樓の宴席だけを明るく

照らしていることを將軍やその宴席に

いる者たちは知つてはいない」と表現

をばかしてはいるが、幕藩体制への憤

りを詠み込んだものです。

この橋のたもには、千代田区教育

委員会が平成十六年十二月に立てた案

内板があり、それによれば、「この橋を

和田倉橋といいます。…慶長七年（一

六〇二）頃といわれる「別本慶長江戸

図」には橋が

描かれ、「蔵の

御門と云、土

衆通行の場」

と記述があり

ます。また、

「御府内備考」

には、橋の由

来が「慶長十二年の頃の図に、こゝに

和田蔵と称せし大なる御蔵二棟を図せ

り。是御門の名の起る処なり。（後略）」

と記され、蔵があつたため門が名付け

られたとされています。なお、徳川家康

が江戸に入った時、この辺は和田倉と

いう村落であつたといつ説もあります。

…この橋は、昔そのままに復興された

ものですが、江戸城の門と橋を偲ぶの

にふさわしい景観をみせています。」と

説明されています。

東京駅へ出かけられた際に、ほんの

数分で着ける場所に華山がいた場所が

あります。一度訪ねられると良いでし

ょう。

田原市博物館学芸員 鈴木利昌



若戸小学校で聞きました  
華山を知っていますか？

1 とき 平成十七年二月十八日(金) 授業後  
2 参加者 河合崇起(6年)、伊藤悠馬(6年)

浅倉秀太(6年)、林 庸哲(6年)  
山本幸恵(6年担任)

もつ歴史の勉強は終わりましたが、  
教 ひと通り終って、今「世界の  
中の日本」という勉強です。  
江戸時代の勉強の中で出てきた  
かな？「渡辺華山」を知ってる？  
児(全員) 少し知ってます。  
児 「白井作蔵」のことを調べに  
博物館へ行つて知りました。  
児 ぼくも同じです。  
教 校外活動ということで、五年生  
といっしょにバスで出かけました。  
それじゃ、華山のどんなことを  
知ったのかなあ。  
児 絵をかいた人。  
児 江戸で生まれた人。  
児 絵かきとして有名な人。  
児 田原藩の藩士だった。  
児 華山は、最初は内職で絵をか

いたけど、すごい実力があって、  
本当の画家みたいになった。  
そうですね。華山の絵で、国宝  
になっているのがありますが知って  
ますか？  
児 (沈黙)  
知らないようですね。『鷹見泉石  
像』といって人物画です。華山は、  
人物画が得意でした。  
児 博物館に行つて、華山がサム  
ライだったことが分かりました。  
華山は、武士として、画家とし  
て、学者として、大きな仕事をし  
ました。それで、みんなに注目さ  
れた偉大な人です。また、博物館  
へ出かけて勉強してほしいな。  
教 華山は教科書には出てこない  
ので、若戸小では「白井作蔵」を  
中心に勉強したんです。それで、  
博物館へ行つた時も「順応丸」の  
ことを中心に調べたんです。  
それはいい。作蔵のことを切り  
口にして勉強していけば、華山の  
ことに突き当たりますよ。  
作蔵について、どんな勉強が

できましたか？  
児 漂流して、捕鯨船に助けられた。  
児 九〇日ぐらい漂流した。  
児 助けられてから捕鯨船の手伝  
いをさせられ、アメリカのニュー  
ベッドフォードまで旅をした。  
児 日本に帰ってきたんだけど、  
田原藩の足軽として、三人ぐらい  
の見張りをつけられて働いた。  
田原藩が造つた船で働いたんだ  
ね。それが「順応丸」。  
作蔵は、若見の人だけれど、ど  
の辺りで生まれたのかな？  
教 池尻の人です。もつ家も残つ  
てはいませんが、海に近い方で、  
カネゲンさんの辺りだと言われて  
います。  
作蔵の勉強を、どんな風にまと  
めたんですか？  
児 劇にしました。  
学芸会上演したんですか。何  
分ぐらいの劇にしたの？  
児 四十五分ぐらいです。  
内容は？  
教 船に乗って出ていって、漂流

して、アメリカ船に助けられたと  
ころまでです。  
児 ぼくが、作蔵の役をやりました。  
船乗りだから、越中ふんどしで  
もつけて、裸でやったのかな？  
児 もも引をはいて、粗末なはんで  
んを着てやりました。  
素晴らしい劇だったでしょうね。  
若戸小でなくてはやれない劇です  
ね。  
教 教育委員長の山田先生に脚本も  
見ていただいて、ご教示を受けま  
した。  
市内の小学校で、郷土の人物を  
劇化して、伝統的に上演してい  
るところがあります。中部小の華山  
劇、衣笠小の江崎巡査物語など  
若戸小もこの「作蔵」の劇を伝統  
にするといいですね。  
毎年の六年生に引き継いで、  
脚本も改めて、もっともつと良い  
ものにしていってください。  
今日は、「白井作蔵」の話が聞け  
てよかった。では、これで。  
(文責 林 和彦)

財団法人華山会  
田原市博物館 から  
ご案内

特別展・企画展のご案内

四月二十六日～六月十九日

春の企画展「渡辺華山と周辺作家」

田原市博物館蔵名品選

八月二〇日～八月二十九日

田原市誕生三周年特別展

「芸能人の多才な美術展」

(企画展示室)

九月二日～十月十六日

特別展「渡辺華山・椿椿山が描く人物画 十九世紀の迫真(レアリスム)に出会ふ」(特別展示室 企画展示室)

同時開催 特別陳列重要文化財「孔門十哲」(特別展示室 九月十三日から)



渡辺華山筆 黄粱一炊図

平常展のご案内

三月二十五日～四月二十四日

谷文晁・渡辺華山の山水 中国へのあこがれ(特別展示室)

田原の歴史「岡田虎二郎 静坐法とその思想」(企画展示室1)

田原の歴史「渥美古窯の時代」

(企画展示室2)

六月二十三日～八月十七日

渡辺華山・椿椿山の花鳥画(特別展示室)

芝村義邦コレクション 陶磁器

(企画展示室1)

田原の歴史 大名戸田氏(企画展示室2)

八月二〇日～九月十一日

渡辺華山と華山十哲(特別展示室)

常設展示室では渡辺華山の生涯を紹介しています。

民俗資料館では田原の暮らしを中心に展示しています。

赤羽根文化会館展示室でも所蔵品を展示しています(展示替による臨時休室もあります)。

観覧料

観覧料

企画展

一般 五〇〇円(四〇〇円)

小中生 一〇〇円(八〇円)

八月特別展

一般 五〇〇円(四〇〇円)

小中生 無料

九月～十月特別展

平常展  
一般 七〇〇円(五六〇円)  
小中生 無料

一 般 二二〇円(二六〇円)

小中生 一〇〇円(八〇円)

( )内は二十名以上の団体の料金

毎週月曜日は休館、月曜日が祝日の場合は翌日。展示替による臨時休館があります。

催しもののご案内

五月一日・五月十五日 午前十一時

春の企画展展示解説

田原市博物館学芸員

五月五日 午前九時三十分から

こどもの日企画「鎧を着てみよう」

親子・一般も可、定員60人

四月一日から電話にて先着順受付

七月予定

博物館講座「戸田氏の史跡を訪ねて」

十月十五日 田原城跡月見会

茶席・句会等

(財)華山会から

華山・史学研究会会員募集中

入会申込書に十七年度分会費千円を添えてお申し込みください。

特典

博物館への無料入館

展示会・催し物のお知らせ

視察研修(年一回)に参加できます。

博物館だより(年三回)・華山会報を郵送します。

華山会報 第十四号

平成一七年四月二一日発行

編集発行 財団法人華山会

理事長 白井孝市

事務局長 光浦貞佳

千四四一―二四二

愛知県田原市田原町巴江二二の二

TEL 五三二・二三一・一七

FAX 五三二・二三一・一七

編集・協力

田原市博物館

華山・史学研究会

会長 渡辺巨祥

林 和彦 山田哲夫

別所興一 加藤克己

小川金一 中神昌秀

柴田雅芳 増山禎之

林 哲志

華山会報ご希望の方は華山会館・田原市博物館にお申し出ください。次回発行予定平成一七年十月二一日